

施策No.	政策名	豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり	主管課	スポーツ振興課	主管課長名	仁平 博章
304	施策名	生涯スポーツ活動の振興	関係課	健康推進課、学校教育課、生涯学習課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
	市民		①桜川市人口	人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,190	42,571	41,952	
実績値					46,575	45,673	45,105	44,449	43,826	43,190	42,632	42,000		
見込値														
実績値														
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
	スポーツを通じて健康で明るい豊かな生活が出来る	①週1回以上スポーツを行っている市民の割合	%	目標値			35.0	38.0	41.0	44.0	47.0	50.0		
実績値				36.3	33.8	33.9	33.1	31.2	34.8	39.4	40.2			
②スポーツを通じて健康で明るい生活を送っている市民の割合		%	目標値			74.0	75.5	76.5	78.0	79.0	80.0			
			実績値	66.7	70.3	65.1	65.1	65.3	62.4	63.9	60.9			
目標値														
実績値														
成果指標設定の考え方	○スポーツを通じて健康で明るい豊かな生活が出来るかは、アンケートにより、①「週1回以上スポーツを行っている市民の割合」(実施率)と、②「スポーツを日常的に行っている市民の中で、「スポーツを通じて健康で明るい生活を送っている」と答えた市民の割合」において把握する。													
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○スポーツ実施率は、1週間に1回以上(30分程度以上の運動、軽スポーツ含む)スポーツをしている市民の割合(市民アンケートによる)。 ○スポーツを通じて健康で明るい生活が送れていると感じていますか。(市民アンケートによる)													

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと) ○自分の健康は自分で守るという意識を持ち、地域のスポーツ活動に積極的に参加する。 ○地域のスポーツ活動における指導者として活動する。	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと) ○スタッフの確保や人材育成、スポーツ施設の充実、市民への普及啓発等、市民がスポーツ活動を行いやすい環境を整備する。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか? ○これまではスポーツ振興法に基づき施策を行ってきたが、新たにスポーツ基本法(H23/6/24公布)が制定された。基本法では国民はスポーツを通じて幸福で豊かな生活を営む権利を有し、スポーツ施策の推進を行政の責務と明確に謳っている。 ○健康志向の高まりにより、特に高齢者層でスポーツをする市民が増えると考えられるが、少子高齢化やスポーツ離れにより若年層で減ると考えられる。 ○体育施設の維持活用などは、新規種目の増加や健康志向などにより、夕方から夜にかけての施設利用が増えているため、地域的に飽和状態であり、効率的な利用が必要となっている。	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○施設や機器の老朽化が気になる意見がある。 ○平成24年3月の後期総合計画時のアンケートの結果によれば生涯スポーツ活動の振興の優先度調査から優先度は低いが、満足度についてはやや高くなっている。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① スポーツをする機会の充実	市民	スポーツに取り組んでもらう	週1回以上スポーツを行っている市民の割合	実績値	33.8	33.9	33.1	31.2	34.8	39.4	40.2
				%							
② スポーツ施設の充実と有効利用	施設	多くの人に快適に利用してもらおう	市のスポーツ施設利用者延べ人数	実績値	292,954	183,538	278,747	278,439	261,027	276,825	255,280
				人							
③ スポーツ団体の充実とリーダーの育成	市民	スポーツ団体が充実する	①体育施設利用団体数	実績値	193	198	198	200	199	184	177
				団体							
				実績値							
			②指導者数	実績値	178	185	185	192	178	196	188

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	26年度実績	27年度実績	28年度実績
①本施策を構成する事務事業の数	件	35		35
②施策事業費(一般財源以外)	千円	26,391		14,945
③施策事業費(一般財源)	千円	138,144		105,987
④施策事業費の計(②+③)	千円	164,535		120,932
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	32,642		34,460
⑥計(④+⑤)	千円	197,177		155,392

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
主要事業	岩瀬運動公園長寿命化事業	後期基本計画主要事業
主要事業	真壁体育館耐震補強事業	後期基本計画主要事業
事務事業	総合型地域スポーツクラブへの支援事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
事務事業	体育協会助成事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
事務事業	スポーツ推進委員運営事業	H27貢献度上位、H28優先度上位

施策番号	304	施策名	生涯スポーツ活動の振興	主管課	スポーツ振興課
------	-----	-----	-------------	-----	---------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)-①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>○スポーツ実施率(週1回以上スポーツを行っている市民の割合)は、22年度から26年度まで33.8%、33.9%、33.1%、31.2%、34.8%とほぼ横ばいでしたが、27年度39.4%、28年度40.2%と上昇傾向を示してきており、習慣的に運動をしている人が増えつつある。また、スポーツをしている人の中で、スポーツを通じて健康で明るい生活を送っている市民は22年度の70.3%を除けば、21年度が66.7%、23・24年度が65.1%、25年度は65.3%、26年度62.4%、27年度63.9%、28年度60.9%と横ばいから減少傾向にあり、運動・スポーツが生活に定着しつつあるが、満足とまではいえないと考えている人もいられる。</p> <p>○年齢別のスポーツ実施率は、10代76.9%、20代25.5%、30代29.3%、40代28.4%、50代33.1%、60代44.2%、70歳以上59.6%であった。20代から50代が全体の数値(40.2%)より低いが、60歳以上では実施率が高い。20代から50代の方は仕事・子育ての関係から実施率が低いと思われる。60代以上でスポーツ実施率が高いのは、ここ数年力を入れている「総合型地域スポーツクラブ」などの取り組みが、健康志向と相まって成果が出てきていると考えられる。</p> <p>○スポーツ施設の延べ利用者数は、23年度に18万人と震災により上半期の間、施設を使用できなかつたため少なかつたが、24年度からは26万人から27万人で推移したが、28年度は255,280人と横ばいから減少した。スポーツ実施率は向上しており、気軽に取り組める運動・スポーツを行う人が増えたと考えられる。</p> <p>○体育施設利用団体数は26年度199団体、27年度184団体、28年度177団体と年々減少傾向にある。要因は、少子高齢化、人口減などが主な要因と思われる。</p> <p>○指導者数は、25年度が192人、26年度が178人、27年度は196人と18人増えている。これは、27年度より1団体に2人以上の認定指導者が必要となったためである。しかし、28年度は18人へと減少した。これは、体育施設利用団体数の減少も1つの要因と思われる。</p>		

1)-②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>○週1回以上のスポーツ実施率の目標値50.0%に対して40.2%と9.8ポイント下回っている。</p> <p>○スポーツを通じて健康で明るい豊かな生活を送るについては、目標値80.0%に対して60.9%と19.1ポイント下回っている。</p> <p>○平成22年10月に総合型地域スポーツクラブ「桜川スマイルクラブ」が設立し、順調な運営を行なっている。スポーツ実施率からも60歳以上の方々には気軽にスポーツが出来る環境は整ってきているが、20代から50代までの実施率を上げるには、もっと「体育協会」と「スマイルクラブ」の連携が必要になってくると思われる。また、子育てをしながらの参加や、仕事が終わった後の参加が出来るような仕組みを考えていくことも必要になってくる。今後は、健康維持や生活習慣病・介護予防も視野に入れながら、施設を利用しないで出来るウォーキングや散歩、自宅でのラジオ体操などの普及を、体育関係団体のみならず、健康推進課・高齢福祉課などと連携を図ることも視野に入れていくべきと思われる。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>○茨城県の実施率34.7%(H28県政世論調査)に対して、桜川市は40.2%(H28)であり、県実施率を上回っている。また、県内の他市町の状況は水戸市41.1%(H27)、那珂市27.4%(H27)、高萩市26.3%(H28)、鹿島市26.0%(H26)、神栖市38.5%(H27)、龍ヶ崎市43.2%(H25)、つくば市40.3%(H25)、守谷市33.1%(H28)、結城市28.0%(H28)となっている。</p> <p>○国全体の実施率も平成28年度は42.5%となっており、桜川市においてはほぼ全国平均である。</p> <p>※国のスポーツ基本計画によるスポーツ実施率の目標値(平成24年度)は65%、県の目標値は(平成27年度)60%となっている。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>○平成22年度の市民アンケートでは、この施策に対する満足度は平均よりやや高く、優先度については下から2番目となっている。市民の期待は、この施策よりも他の施策へ、満足度も平均を上回り、現状維持項目の中に入っている。しかしながら、施設の老朽化が著しく、財源確保が最優先となってくる。</p>		

7. 総合計画後期基本計画(H24~28)の振り返り

区分	これまでの取組成果
施策全体	<p>○子どもから高齢者まで、スポーツを通じて健康で明るい生活が送れるよう、スポーツに取組む人を増やし、スポーツ実施率の向上を図るため、様々な事務事業に取り組んできた。</p> <p>○総合型地域スポーツクラブ「桜川スマイルクラブ」が設立し、多種目の教室を開催し、運動・スポーツをする機会の充実が図られている。平成28年9月にはNPO法人となり、組織及び運営体制も強化されおり、人口減少が進んでいる中で会員数はほぼ横ばいを維持している。</p> <p>○多くの人に安心安全に、及び快適に利用してもらうため、スポーツ施設の充実と有効利用をめざし、老朽施設の改修・修繕を実施してきた。また、民間活用の検討も行なってきた。</p>
基本事業	<p>○平成22年10月に総合型地域スポーツクラブ「桜川スマイルクラブ」が設立し、現在は地域社会や行政と連携し、自立した活動を行っており順調な運営を行なっている。また、年々認知度も上がってきており気軽にスポーツが出来る環境は整ってきている。</p>
	<p>○老朽化による施設、設備、器具等の修繕を安全性及び利便性を考慮し、計画的に行ってきた。</p> <p>○利用者の利用調整及び施設の効率的な使用を図るため、利用者調整会議(岩瀬:毎月1回、真壁・大和:3ヶ月1回)を開催してきた。</p>
	<p>○「スポーツ推進委員」「桜川市体育協会」「桜川市スポーツ少年団」「桜川市スマイルクラブ」の主体性を高め充実した活動が行なえるよう支援した。</p>